

歴史の舞台と四季の彩道

～新たな城下町をつくる～



城址を核として、歴史・自然・食文化・暮らしを
特産品と四季彩で繋ぐ

本計画は城址を核としたエリア内外のネットワークを、福井固有の特産品と四季彩によって形成していくことで、「福井の持つ歴史的な魅力を四季の移ろいとともに感じられる」情緒あふれる街並みを、福井の新たな城下町らしさとして提案するものである。



新たな城下町を楽しむための3つの仕掛け

集 あつまる 市民活動と歴史発信の舞台となる城址公園をつくる

中央公園を市民の憩いの広場として整備し、城址を観光者向けの情報発信の場として整備する。中央公園は現在提示されている基本計画に則り、アートイベント等の市民活動が可能なスペースを設け、創造的、文化的活動の情報発信の場とする。福井城址は、県庁、警察署、議会の移転後に、段階的に天守閣や櫓等を復元し、歴史情報発信拠点として整備する。これら2つの公園が御廊下橋で繋がる事により県都の顔となる城址公園が生まれる。

賑 にぎわう 地区ごとの魅力を再生する4つの彩道をつくる

城址公園周辺の魅力向上の為に、城址を核として四方に延びる彩道を整備する。4つの彩道は、「歴史の彩道」「食と文化の彩道」「商いの彩道」「職と住の彩道」として地区ごとの魅力を活かしたテーマを設定し、それぞれの彩道は城址の石垣を借景とする。沿道には各彩道に沿ったテーマの町並みが展開することで、地区ごとの魅力が都市全体の個性を向上させるとともに、かつての城下町らしさを現代的に再生する。

巡 めぐる 歴史をつなぐ四季彩の散歩道をつくる

歴史のみちに、福井市の特徴的な植物が彩る四季彩の散歩道をつなげ、福井の歴史や福井らしい風景を楽しめる街路空間を整備する。四季彩の散歩道は、「春：桜」「夏：紫陽花」「秋：紅葉」「冬：水仙」からなり、季節の変化を体感しながら歴史と共生するまちへと育てるものである。街路空間の整備にあたっては、四季折々の植物に加え、笏谷石や越前和紙・越前指物といった福井市民にとって愛着のある素材やデザインを、ベンチやサイン等のストリートファニチャーに積極的に用いる。それにより、福井市民が生活する中でまちへの誇りや愛着を醸成するための場が生まれる。

「商い」の彩道 / 桜



「食と文化」の彩道 / 紫陽花



「歴史」の彩道 / 紅葉



「職と住」の彩道 / 水仙

